

アワプラジオ通信【2015年7月号】

■発行元 アワプラジオクリエイティブ ■102-0084 東京都千代田区二番町 5-2 麹町駅プラザ 901
■E-Mail: awapuradio@gmail.com ■TEL: 03-6868-5129 ■Web: <http://awapuradio.com/>

インタビューシリーズ

放射能から子どもたちを守りたい

NPO 法人 子ども全国ネット 中山瑞穂さんに聞く



2011年3月11日に発生した東日本大震災・東京電力福島第一原発事故をきっかけに放射能問題に関心を持ちインターネットでの情報発信を始める。20年勤務した会社を退職して子ども全国ネットの立ち上げに参加。現在はその他にもさまざまな子どもを守るための活動を展開している。

■NPO 法人 子ども全国ネット公式サイト
<http://kodomozenkoku.com/>

——NPO法人子ども全国ネットの活動はどのような経緯で始まったのですか。

2011年3月11日に東日本大震災が発生して原発事故が起きました。これに伴って、子どもたち大丈夫かなと（放射能の影響を）心配するお母さんたちが立ち上げた“守る会”のようなものが北海道から沖縄まで全国に発足しました。5月、6月頃からこうした動きが一つにまとまれないかと考え、ツイッター（短文投稿サイト）だけで呼びかけたところ、約400人が参加して7月12日にキックオフに至りました。

現在、運営にかかわっているメンバーは10名ほどいます。その中でも毎回ミーティングに参加する固

定メンバーは5～6名です。女性が多いですが、「市民運動をがんがんにやってきました！」みたいな方はいないですね。あとは、チェルノブイリ原発事故のときにできた小金井市（東京）の測定所の立ち上げに携わっていた方がアドバイザーとして見守ってくださっていてその存在は大きいですね。

当初は「給食のことを何とかして」「牛乳は大丈夫か」というように思いだけでテクニカルなことはわかりませんし、何かやらなければという勢いだけでした。

——4ヵ月でこれほど集まったというのはすごいことですね。

各自治体で行われている自治体交渉というものが早いところでは3月頃から始まっています。だけどみんなノウハウが無いので、陳情書の一つ書くだけでものすごく固まってしまって。だけどそういうことがわかっている団体とつながりを持つことで簡単にそのハードルは越えられます。SNS（コミュニティ型ウェブサイト）を通してみんなでノウハウを共有することができました。

一方で交渉に立ち会う中、文部科学省や厚生労働省からの決定ですからなどと返答されることも多く、地元だけの活動に限界を感じることもありました。さらに上の機関と交渉する上で横のつながりが重要だという発想から、これほどの集まりになったのだと思います。

——現在の活動について教えてください。

今は2011年に比べると勢いで動く時期は終わっています。情報共有のため各地の放射能に関するニュースをまとめてSNSで発信する広報機能を担うこと。それから当時は子どもがいなかったり、あま

り関心がなかったお父さん、お母さんで子どもができたたり給食を食べる時期になって関心を持ち始めたという方は増えています。そういった方に向けて“学びカフェ”というものを開催して正しい知識を身に付けていただく活動も行っています。

一緒に活動している仲間の1人が、ママズ・レボリューション（ママレボ）という情報誌を3ヵ月に一度発行していて、全国ネットではその広報を担っています。個人的な感覚ですが、中庸な情報はSNSでは拡散しにくいと感じていて「とっても安全」「とっても危険」というように偏ってしまう傾向があるように思います。そういった情報提供の場としても、紙媒体や直接出会える機会というのは重要だと考えています。

——活動も4年目を迎えてどのようなことを感じておられますか。

自分自身の変化に驚いています。放射能のことなんてまったく知りませんでした、いろいろ勉強し

ていくうちに社会構造の中のおかしな部分も見えてくるようになりました。以前は家と会社、保育園の三角地帯で生活していて仕事柄、新聞は読んでいましたが、社会で起きている出来事を自分のこととして考えてはいませんでした。ですからこの活動を通じて同じような考え方を持つお母さんたちとつながれることはとても大きいです。

私は20年間働いていた会社を辞めて活動を始めました。でもそれができる方は少ないですし、必ずしもそれが良いとは考えていません。以前の私のような会社員の方が、もう少し社会の出来事に対して自覚的になれる機会、たとえば区議会を傍聴するなどといったことがもっと実現できないかなというのが今後の課題ですね。

子ども全国ネットも時代と共に変わっていくと思いますが、放射能に対する取り組みはもちろん、地域のことや、子育て世代へのアプローチなど、とにかくできることをやっていきたいと思っています。

（まとめ：井上舞香）

Abe's VIEW Vol.8 「引っ越し風が吹く」 あべこう一



16年で11回引っ越しをしています。きっと多いほうではないでしょうか。4年に一度のオリンピックは余裕で上回っています。

引っ越しが趣味というわけではありませんが、どうしてもせざるを得ない自分なりの理由ができてしまいます。神経質な私はマンションやアパートでのとなりや階上の住人が立てる物音にすこぶる敏感で、その種のトラブルは何度か経験しました。

あとは一つのところで淀みたくない、川の水は流れていけばこそ清くあることができるというような思いも反映されているように思います。何かに行き詰まったり、環境の変化があったりすると真っ先に引っ越しを考え、都市部で部屋を借りる際にある2年ごとの更新の制度は引っ越しを実行に移すきっかけになります。

引っ越しの良い点の一つは不用品を処分する機会になることです。引っ越しをするたびに物心両面で身軽になっていく感覚があります。とはいえ、それも私が一人身だから可能なこと。家族がいればなかなかそういうわけにもいかないことでしょう。

そして引っ越しはいろいろとめんどくさいものです。役所への転入、転出届の提出から郵便の転送届。免許証や銀行口座など諸々の住所変更。不動産屋を通した家主や売主との契約などなど。一度の引っ越しでさまざまな“社会的なこと”に直面します。小さくないお金が絡むことでもあるので、どんな仕事に就いているのか、連帯保証人はどんな人を立てられるのかなど、いやがうえにも社会の側から見てどれだけ自分自身に信用力があるのかということと向き合わざるを得ない機会にもなります。

衆議院議員の任期は4年ですが任期満了前の解散総選挙があります。政治の世界では解散が近いムードのことを解散風が吹くなどと言います。それになぞらえると、私も任期満了（更新時期）が近づいてくると“引っ越し風が吹く”というお話でした。

本の紹介

エンジェルフライト (2014年11月)

佐々涼子 著・集英社文庫・605円



この本は、エアハースという会社を取材して書かれたノンフィクションだ。読める人、読めない人が両極端に分かれる内容ではないかと思う。

エアハースの主な仕事は、海外で亡くなった邦人を日本国内のご遺族の元へ返すことだ。一

見、必要なか不必要なのかも分からない職業だと思ふ。飛行機で運ばれた身体をそのまま運ぶだけではないのか。だがそう簡単にはいかない。国によっては防腐処理がいい加減なこともあるし、機内の気圧の変化にも晒される。身体は生ものだから、状態が変われば普通の人には見るに耐えない姿にもなる。

彼らは故人の身体を丁寧に“修復”し“化粧”を施す。故人が天国へ旅立つ前、家族、友人、みんなとただ一言、さようなら、と言い合えるように。

この物語は医療ではない。だが、絶望の中にある一筋の救いを切り取り、故人と遺族にとっての「命」の現場を描いている。

著者はその仕事と戦う人たちに寄り添い、物言わぬご遺体に向き合う彼らの背中を追った。我々が漠然と恐れている「死」とはどういうものなのか、その「死」を遺族はどう受け止めていけばよいのか、を著者の目を通して見ることが出来る。

遺族にとっての「死」はただの「死」ではない。もっと深く、永遠に心の中に続く出来事なのだ。それを受け入れる手助けをこの仕事が担っていることを、本は語ってくれる。(浅香友里)

60 戯画—世紀末パリ人物図鑑—(2005年10月)

鹿島茂著・中公文庫・542円



戯画と言えど政治風刺を中心に面白おかしく有名人を描いたものだが、フランス近世、世紀末パリに生きた60人の魅力あふれる戯画を載せ、ウィットにとんだ人物紹介とともにその世界にいざなってくれる一冊。フランス文化で有名な鹿島

茂がイラスト新聞「LES HOMMES D' AUJOUR' HUI」(レ・ゾム・ドージュルデュイ)や「LA LUNE」(ラ・リュヌ)をもとにして、それに描かれた戯画の人物をテーマに解説する。

特に風刺画家アンドレ・ジルによるカリカチュアは相手の毒々しいまでの特徴を抉り出しつつも、何かしら人を惹きつける力を有し秀逸である。描かれた人物は小説家も含みフランス文学の有名どころ、ヴィクトル・ユゴーやジュール・ベルヌ、アルチュール・ランボーや画家ロートレック、女優サラ・ベルナールが登場し、政治家ではレオン・ガンベッタやドイツ人のプロイセン宰相オットー・ビスマルクも収められている。

今日でも盛んに書かれるカリカチュアがこの時代でもたくましく描かれている。現在では名声を確立している人物も、面白おかしく戯画化されているのを見れば、人間臭さが感じられる。彼らもその当時は時代の流れの中でもまれていた様子が目に浮かぶようである。(内藤千尋)

アワプラジオ通信の定期購読は『あべこらうファンクラブ “Oasis”』へご入会を！

【入会金0円・年会費4200円】■お申し込みの上、下記の口座へ年会費をお振り込みください。

【郵便振替】

郵便振替口座 15530-3969671 名義 阿部浩一

※他の金融機関から振り込む場合

店名 五五八(ゴゴハチ)

店番 558 普通 0396967

【銀行振込】

三菱東京UFJ銀行 インターネット支店

普通 3772395 名義 阿部浩一

中央労働金庫 本店営業部

普通 3113628 名義 アワプラジオ 事務局長 阿部浩一

あべこう一の音楽活動

■2015.7.18(土) 下北沢スムルトロン(東京)
「minako+あべこう一 ~波瀾万丈カフェ Vol.2~」
15:30 Open/16:00 Start
場所: ダイニング&ミュージック スムルトロン
(小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』北口・西口5分)
予約/当日: ¥2,500/¥3,000 (1Drink 付)
ゲスト: エモーショナルアーティスト minako

Singer Songwriter のあべこう一が企画する『波瀾万丈カフェ』。今回はライブペインティングや歌などのパフォーマンスで活躍中のエモーショナルアーティスト minako をゲストに迎え、演奏中にステージで彼女がライブペインティングを行います。また Singer としてあべこう一のあの名曲を共演。そしてなんとあべの体をキャンバスに公開ボディペインティングも行います!

お店自慢の料理とドリンクを味わいながら、ゆったりとした心地よい時間をお楽しみください!!



■あべこう一の CD アルバム



夏に消えていく
(2013年作品・1543円)

1. 夏に消えていく
2. 君と僕と冷えたコーラ
3. イニシャル 2013
4. 雷 Dance!
～雨の夜のサーカス～
5. タイムカプセル



東京実験 (2012年作品・2038円)

1. いろりカフェー
2. 悲しくもおだやかな世界
3. Change
4. イニシャル
5. 無題ドキュメント
6. 風のドラマ
7. 雷の下で雨粒に撃たれ

●詳細はこちら <http://k-abe.jimdo.com/shop/>

インターネットラジオ アワプラジオ

■東京ラブレター (毎週木曜日・21:00~21:30)
首都圏で活動する NPO や NGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●7月のオンエア【2日、9日、16日、23日、30日】

「山口県上関町の原子力発電所建設計画に待ったをかける首都圏の活動」

上関原発どうするの? ~瀬戸内の自然を守るために~ (上関どうするネット)

デモプロジェクト

菅波 完さん・藤村康子さんに聞く

ナビゲーター: あべこう一、高木祥衣

●番組を聴くには

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。
「近畿」→「FM わいわい」を選択。※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンや iPad で聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。
(検索窓で「FMYY」)。

セミナー・イベント情報

■2015.7.26(日)「いらんじゃろう上関原発」で司会を務めます。

時間: 13:30~16:00 (開場 13:00 予定)

場所: 日比谷コンベンションホール

(東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」C4・B2 出口5分、都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7 出口より3分、JR「新橋駅」12分)

参加費: 1000円 (当日受付にてお支払いください)

定員 200人/要予約

<ゲスト>

- ・湯浅一郎さん (理学博士・海洋物理学/海洋環境学専門)
- ・氏本長一さん (祝島在住・「氏本農園」代表)
- ・おしどりマコ・ケンさん (吉本クリエイティブ・エージェンシー所属/漫才協会会員)

<すべてのお問い合わせ>

awapuradio@gmail.com / 090-6833-1491

編集後記

先日肩こりの痛みに耐えかねて初めて鍼を体験しました。よく聞くズーンとくる感じってどんなものだろうと施術を受けて、百聞は一見に如かず(?)の思いがしました。(阿部浩一)